



人権・同和教育部だより

第2号（2021年5月25日発行） 浜田水産高等学校 人権・同和教育部

ニセ科学を考える

差別は根拠のないうわさや迷信から起こることがあります。今回は差別と関係のある**ニセ科学**についてとりあげます。ニセ科学とは「科学的に根拠がないことを科学の用語などをそれっぽく使いながら論理だてて説明しているようにみえる科学もどきのもの」です。

ニセ科学にはどのようなものがあるかというところ

- EM 菌・・・万能な微生物らしいです
- 水からの伝言・・・水に汚い言葉を聞かせる
と崩れた氷の結晶ができるらしいです。
- 電磁波（特に 5G）・・・「科学と人間生活」で電磁波が出てきますが、ちゃんと勉強していれば電磁波は怖いものではないとわかります。
- ワクチンは危険・・・まちがったやり方をすれば危険ですが、お医者さんが問診をしながら万全の体制でワクチン接種を行っています。浜田に住んでいればジェンナーの碑が何のために建てられたかを聞いたことがあると思います。

他にもたくさん**ニセ科学**がありますが、興味のある人は「学校に入り込むニセ科学」を読んでみてください。（図書館で聞いてください）著者の左巻健男先生は島根県によく来られて県内の理科の先生方に実験や科学リテラシー（自然科学を正しく考えていくこと）の指導をしていただいています。



《最後にみなさんに宿題です》

「真理」「真実」「事実」「現実」というよく似た言葉がありますが、それぞれの意味を考えてみてください。自然科学（理科）は「現実」をよく見つめることと、「事実」を積み上げていくことが大切だと思います。

「真理」「真実」は哲学や宗教、芸術の深遠なところにあるものなのではないでしょうか。